

公立八女総合病院

研修医 合原 水月 2017年2月

地域医療研修の1ヶ月も早いものでもう終わろうとしています。私の故郷である福岡県八女市は、母校の小学校が閉校になったり地区に唯一の診療所が医師の確保ができず閉鎖されたりと、少子高齢化に伴って医療環境が厳しくなりつつあります。そんな故郷の医療に貢献したく医師を志しましたので、出水市での地域医療研修はとても楽しみにしていました。

野田診療所、高尾野診療所、上場診療所で診療に参加させていただきましたが、先生方の圧倒的な診療スキルはもちろん、先生方や診療所スタッフさんと地域の方々との間にある厚い信頼関係には特に強い感銘を受けました。独居であったり、通院が困難であったり、その他にもいろいろな背景を抱えている患者さん一人ひとりに寄り添うような、そして時には教科書的な内容から一步踏み出したような診療を目の当たりにして、私が将来の目標とする医療がそこにあるように感じました。

出水総合医療センターでは脳神経外科で研修させていただき、急性期脳卒中を始め痙攣や意識障害など、幅広い症例の診療を経験できました。自身の研修病院には無い回復期病棟での診療にも僅かながら参加する機会を頂き、貴重な経験となりました。

話題が大きく変わりますが、私は写真やカメラが大好きです。実は、出水市に渡来する鶴の写真を撮りたい！と研修担当の先生に無理を言って、半ば強引に2月に地域医療研修の予定を組んでいただいた経緯があります。週末など時間があれば夜明け前から何度も撮影に出かけました。素敵でした。感動しました。「出水の美しい風景+優雅に飛翔する鶴」という贅沢な被写体を撮る機会を沢山与えていただき、私は今、本当に幸せです。

興味が有って調べたところ、古くは鹿児島県がまだ薩摩藩だった頃から鶴を大切に作る運動が有ったそうです。（地元の方々をご存知でしょうが、感動しましたので）一時期は鶴が出水市から消えた時期もあったようですが、地域の方々の努力で今のようなたくさんの鶴がやってくるようになった経緯は、とても感心しました。鶴の観測所で見た紹介映像のなかに、中学生の「鶴クラブ」の人たちが、早朝から凍えるような寒さの中で黙々と鶴を数えている場面、傷ついた鶴を保護し、処置を施している場面があり、胸が熱くなりました。病院でお会いする地域の方々は皆さんがとても暖かく、その優しさがこれほど多くの鶴を呼び寄せるのだろう、と感じました。

地域医療研修と同時に、もうすぐ2年間の初期臨床研修も終わろうとしています。私の研修病院である公立八女総合病院でも、ここ出水市でも、患者さんや地域の方々に日々いろいろな事を教えていただきながら、そして支えていただきながら過ごした日々であったと感じます。自分がおかれている環境に感謝しつつ、今後も研鑽に励んでいきたいと思えます。